

本誌は『リーバイストラウズ活動推進基金』の助成により発行されています。

http://www.kamagasaki-forum.com/rojo/

なにわ路情

野宿考ジャーナル 7号(隔月刊)

「なにわ路情」がめざすもの

野宿生活者の生活や声を取りあげ、ともに考える新聞です。脱野宿のきっかけとなるような紙面づくりに心がけています。今までのと違って、ここのこと、いかに考えていきましょ。

野宿生活を送る人たちに、おそろ医療健康相談を行いました。医師の黒川です。

反省と行動の一步として

3月21日、淀川河川公園でおそろ医療健康相談を行いました。医師の黒川です。

野宿生活を送る人たちに、おそろ医療健康相談を行いました。医師の黒川です。



健康回復へ緊急対応として取り組みました。

当日は、医療ボランティアとして活動してきた医師、大阪府保険医協会に所属する医師など、計7名、協会事務局の方たちなど総勢25名が参加しました。相談が円滑に進むように、大阪市生活保護施設連盟・巡回相談員や元相談員の方々の応援をはじめ、NPO釜ヶ崎支援機構公衆衛生担当、国境なき医師団事務局、外国の方、学生など多彩な顔ぶれが集まりました。10時半

報告会では、さまざまな報告がなされました。小屋、テントの生活に至ったわけ、日常生活

の送り方、仕事を見つめるための努力やそのむづかしさ、医療をふくむさまざまな制度への不満、はじめは「元氣や」と言われていたことも、健康に対する不安を語りだしたことなど、それぞれひとつが、さまざまな悩みや課題をかかえながら、きびしい毎日にたえずつづき生きている現実を知ることができました。わたしたちが医療の現実のあり方をもつ一度見なおすことの重要性と、みなさんへの理解を深めることの大切さを再確認しました。すべての参加者が、今後このような医療面でのみなさんへの協力と支援を継続していくことの大切さも確認しました。

野宿生活を送る人たちに、おそろ医療健康相談を行いました。医師の黒川です。

健康回復へ緊急対応として取り組みました。

の送り方、仕事を見つめるための努力やそのむづかしさ、医療をふくむさまざまな制度への不満、はじめは「元氣や」と言われていたことも、健康に対する不安を語りだしたことなど、それぞれひとつが、さまざまな悩みや課題をかかえながら、きびしい毎日にたえずつづき生きている現実を知ることができました。わたしたちが医療の現実のあり方をもつ一度見なおすことの重要性と、みなさんへの理解を深めることの大切さを再確認しました。すべての参加者が、今後このような医療面でのみなさんへの協力と支援を継続していくことの大切さも確認しました。

の送り方、仕事を見つめるための努力やそのむづかしさ、医療をふくむさまざまな制度への不満、はじめは「元氣や」と言われていたことも、健康に対する不安を語りだしたことなど、それぞれひとつが、さまざまな悩みや課題をかかえながら、きびしい毎日にたえずつづき生きている現実を知ることができました。わたしたちが医療の現実のあり方をもつ一度見なおすことの重要性と、みなさんへの理解を深めることの大切さを再確認しました。すべての参加者が、今後このような医療面でのみなさんへの協力と支援を継続していくことの大切さも確認しました。

紙面	1 あおぞら医療健康相談報告	3 協働であたろう野宿者支援
	2 借金問題は解決できます	4 こちら路上医療相談室
	2 極寒、北海道の野宿生活	4 ある小学生からのメッセージ「実験してみました」
	3 京都に脱野宿の人々のグループホーム	4 「カマヤんと八起さん」編集後記

発行元 NPO元氣百倍ネット なにわ路情編集局
〒530-8090 大阪中央郵便局
NPO元氣百倍ネット
「なにわ路情編集局」係
tel 06-4397-9305
e-mail rojoinfo@zap.att.ne.jp
http://www.kamagasaki-forum.com/rojo/

こちら路上医療相談室 第8回

A・S(社会福祉法人釜ヶ崎ストロームの家)

野宿とアルコール依存症について考える

切り離せない問題

野宿への道を防ぐうえで、野宿から抜け出し、アルコール依存症への対応は重要。そのくせ、野宿問題よりもっと「自業自得」論で片付けられがち。この問題の深刻さがありません。ストレスがたまったり、仮眠が必要な職業のために飲酒を始め、これが長期化、深刻化し、ついには仕事そのものを失っていったケースにも出会います。その時点で適切なアドバイスや治療がなされていけば、と侮やまれます。失業や借金が野宿の根本原因だとしても、アルコール依存症が加わると、事態はもっと複雑化してきます。酒害が深刻に表面化するのには、むしろ量の上にあがってからです。生活保護などでようやく野宿から脱出してアパートなどに住み、安定し

た地域生活を始めようとする段階で、アルコールが足を引っ張るケースはよくあります。しかも、内科疾患にアルコール依存症が重なっている場合は、両方に対応できる医療機関がきわめて少ないため、治療は困難を極めることになり。野宿後の生活場面で一番の悩みはアルコール問題だといえます。

次の項目のうち、3つ以上があてはまる人の場合は、依存症ではないかと疑ってください。

やめようと思っても、お酒を飲みたてたままなくなる 飲み始めると、やめられなくなる 迎え酒をしたことがある 快い酔い心地を得るためのお酒の量が増えている だんだん増えている お酒を飲むことが何よ



りも大切になり、だんだんお酒に弱くなる。お酒の問題が大きくなると、やめられない。どうしたらいいの?

こつとした病気を治療を野宿脱出のきっかけにすることも、だいたいなこと。この点は本紙前号でも指摘されましたね。たしかに、野宿からでは通院することさえ困難です。それでも、大阪市内の地域では、大阪市内更生相談所で相談すれば、大阪市保健所あるいは分室(同じビル)の3階や大阪社会医療センター(無料低額診療所)の1つ、あるいは小杉クリック(天王寺区ほか)を利用することはできます。

保健所分室での判定の結果、精神科病院への入院や施設入所により通院治療につながるこ

とができます。また大阪市内で野宿生活をしていられる場合は巡回相談員に相談すれば、何らかの社会資源(施設や窓口)につないでくれるようです。

私たち釜ヶ崎ストロームの家でも、財政やスタッフの不足に苦しみながらも、自立プログラムやグループホーム、小規模作業所を通じて支援を行なっています。この方面の取り組みを強化するため、昨年社会福祉法人化したばかりです。

次号では、一般的な治療や支援のしかたを紹介させていただきます。

話のまとめとぼくの実験

F 小学校6年OY

KMさんの話をきいて、ぼくはいろいろを学びました。いろいろと言ったのも多いのでここにまとめようと思います。

まずダンボールでねていたと言っていました。自分でもやってみようかと、自転車でダンボールをのせて遠くの人けのないところまで持ってきました。すると、なぜか空がさびしく見えました。ホームレス

取材、編集して、印刷にまわし、発行、市内の公園、高架下、河川敷に配布、と休むまもなく、また取材、編集...。隔月刊ですが、忙しい。記載の発行日より遅れ気味です。みなさんのお手元に梅雨時に配布された場合は、ご容赦ください。

発行財源となつていない。すりばいストロウスの財団の基金もまもなく切れます。何とかみなさんのお手元に届きますよう、さまざまな読者の方からの支援もまたお願いしたいと思っております。配布のお手伝いも募っています。(み)



ある小学生からのメッセージ

実験してみました



ある小学生からのメッセージ

あつちの人々が人権感覚を高め、お互いに人権を尊重しあう社会づくりをめざすという目的で、最近、人権教育という試みが、主に小・中学校などで行われています。

以下は、それに参加したある小学生が、かつて野宿をしていた方の話を聞き、感じたことをまとめたものです。それにして、実験までするなんて、子どもって本当に素直ですね。(み)

